

# かたの 寺社巡り

ノルディックで  
指定文化財を歩く

- 8 -



市内の指定文化財を巡る「ノルディックウォーク」を11月22日(指定文化財の一般公開14分参照)と、30年3月に開催します。それぞれのコースで見ることができる文化財について、連載しています。

今月は、長宝寺と郡津丸山古墳を紹介します。  
問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)



## 長宝寺

長宝寺は、「長宝寺小学校」の名前の由来になった寺の名前です。言い伝えによると、明治時代の初めまでは、神社の境内の裏手に寺があり、郡津神社に附属した宮寺であったとされています。また、「河内名所図会」によると、この寺には十一面観音が本尊であったと記されています。

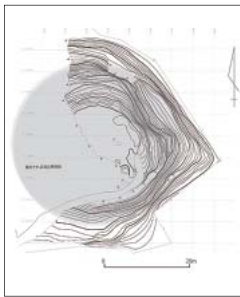
昭和51年、郡津神社内の発掘調査が行われ、「忍冬唐草文軒丸瓦」を含む多数の瓦が出土しました。瓦は古く、奈良時代のものです。また、郡津神社から約200メートル西側では、飛鳥時代までさかのぼる「素弁八葉蓮華文軒丸瓦」(下写真)が出土しています。

現在、郡津神社の裏手にある児童公園を散策すると、奈良時代から江戸時代までの瓦が、土の中から顔を出しており、地面に散布する瓦を確認することができます。

## 郡津丸山古墳と極楽寺

「河内名所図会」によると、郡津村には「梅塚」・「本塚」という地名があったと記されています。現在の府道18号枚方交野寝屋川線を挟んで東側が「梅塚」、西側が「大塚」で、この「大塚」の西端に、郡津丸山古墳(上写真)があります。

この古墳は現在、極楽寺が管理しており、この寺を含む前方後円墳だと推測されましたが、測量の結果、極楽寺までは伸びない「円墳」であることや、平面の大きさに比べて高さがあるため、前期古墳の可能性が高いことなども分かってきました。



測量図(同志社大学  
歴史資料館提供)



郡津丸山古墳北側



散布する瓦



蓮華文軒丸瓦



奈良時代の長宝寺(市役所別館  
ロビー壁面、故・片山長三さん作)

## 豆知識

### 郡津の由来は肩野津？

奈良時代から平安時代にかけて、長宝寺のすぐそばには交野郡衙(役所)がありました。交野市史によると、この郡衙にあった「門」にちなんで、最初は「郡門村」と呼んでいたと記されています。しかし、その後の奈良文化財研究所の調査で、この交野郡で取れた米を奈良時代に平城京へ送っていたという木簡が奈良市内で見つかりました。その中に、肩野津のことが記されています。この木簡から、郡衙に附属した港湾施設の「津」にちなんだ地名として、「郡津」が生まれた可能性も出てきました。



木簡

